

科目名	野球の技術と科学 I	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	The Art and Science of Baseball I	開講年次	■ 1 年 ■ 2 年 ■ 3 年 ■ 4 年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	こ い ず み けん	実務家教員担当科目		修得単位	4 単位
担当者名	小 泉 健	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業の テーマ	野球を科学的に捉えて、成功するための実践的な学習をする。				
到達目標	野球の技術を向上させるとともに、自ら考える力を育成する。また、野球の指導者になるために必要な知識・教養を習得する。				
授業概要	科学的根拠に基づいたトレーニングを研究・実践するほか、スポーツと心理学や生理学、栄養学、管理学等の関連についても学ぶ。				
授業計画					
第 1 回	授業の概説		第 16 回	実習のデータを踏まえた自己分析	
第 2 回	理論と演習（守備の技術と科学）		第 17 回	実習（実戦含む）	
第 3 回	理論と演習（ピッチングの技術と科学）		第 18 回	実習（実戦含む）	
第 4 回	理論と演習（打撃の技術と科学）		第 19 回	実習（実戦含む）	
第 5 回	理論と演習（走塁の技術と科学）		第 20 回	実習（実戦含む）	
第 6 回	実習（実戦含む）		第 21 回	実習（実戦含む）	
第 7 回	実習（実戦含む）		第 22 回	実習（実戦含む）	
第 8 回	実習（実戦含む）		第 23 回	実習（実戦含む）	
第 9 回	実習（実戦含む）		第 24 回	実習（実戦含む）	
第 10 回	実習（実戦含む）		第 25 回	実習（実戦含む）	
第 11 回	実習（実戦含む）		第 26 回	実習（実戦含む）	
第 12 回	実習（実戦含む）		第 27 回	実習のデータを踏まえた自己分析	
第 13 回	実習（実戦含む）		第 28 回	人生における野球	
第 14 回	実習（実戦含む）		第 29 回	運動における生理学的な神経の動き	
第 15 回	実習（実戦含む）		第 30 回	運動に及ぼす心と栄養の影響 ー心理学的な見地から見るー	
			第 31 回	後期定期試験	
授業時間外 の学習	与えられたテーマについて事前に十分研究するとともに、自らの課題を解決するための自主練習をしっかりと行ってください。				
履修条件 受講のルール	大学硬式野球部員と一緒に練習を行いますので、次の履修条件があります。 ○高校卒業時まで硬式野球チームに所属し、「硬式」での経験がある方。 ○大学硬式野球部のスケジュールに合わせて活動できる方。 ○野球の技術の向上を強く望み、トレーニング・研究を続けている方。				
テキスト	授業資料時に資料を配布します。また、必要に応じて授業で提示します。				
参考文献・資料	適宜配布します。				
成績評価 の方法	実習(実戦含む：50%)、レポート(20%)、発表(10%)、定期試験(20%)として総合的に評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	授業終了後				
成績評価の基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)				

実務経験及び 実務を活かした 授業内容	
学生への メッセージ	自分自身や過去を振り返ることによって、自分の能力のほとんどが使われていないことを知ってください。考え方をえることによって、いろんな可能性が開けてきます。思考の持っている力を理解していただきたいと思います。